press release

COLLECTION EXHIBITION

植物がアートになるとき

When Plants Become Art

左上：ブハラ（現ウズベキスタン）《刺繍布（ジャイナマズ）》（部分）　19世紀末／右上：アレクサンダー・カーノルト《静物》（部分）　1925年／左下：鍵光《静物》（部分）　1943（昭和18）年／右下：荒玉希望《逸春》（部分）　1925（大正14）年　すべて広島県立美術館蔵

第3期

2023 9/15 Fri ▸ 12/24 Sun

［開館時間］9:00〜17:00
※9月24日までの金曜日は20時まで開館、9月25日からの金曜日は19時まで開館　※入場は閉館の30分前まで
［休館日］月曜日 ※特別展の会期中は除く。11月6日は展示替えのため閉室。
［入館料］一般510（410）円／大学生310（250）円 ※（　）内は20名以上の団体
［縮景園共通券］一般610円／大学生350円 ※特別展は別料金
※高校生以下無料　※当館で開催中の特別展入館券にて無料でご覧いただけます。
※障害者手帳をお持ちの方や65才以上の方、県内の大学に在学する留学生の方などは無料（1階総合受付でお申し出ください）。

フリートーキングデー
12/9 sat
自由に感想を話しながら展覧会を楽しもう！

広島県立美術館
Hiroshima Prefectural Art Museum
2階展示室
〒730-0014 広島市中区上幟町2-22
tel.082-221-6246 fax.082-223-1444
https://www.hpam.jp/

press release

植物が アートになるとき

【概要】

所蔵作品展 第3期 植物がアートになるとき

1968（昭和43）年に開館した広島県立美術館は、1996（平成8）年に現在の建物に生まれ変わり、所蔵作品展と特別展という両輪によって美術の魅力を発信しています。

当館は開館以来、多くの方々のご協力を得てコレクションを充実させてまいりました。収集重点方針として「広島県ゆかりの美術」「1920～30年代の美術」「日本およびアジアの工芸」を掲げ、現在は総数5、000点を超えています。

さて、今期の所蔵作品展では、県内の巨匠を一望できる「ウェルカムギャラリー」と特別展「おいしいボタニカル・アート」に因（ちな）んだ「植物がアートになるとき」の2本立てで、当館コレクションをご紹介いたします。

2期に引き続き、展示室付近に皆さまに感想をお書きいただき交流できるコーナーを設けるとともに、ギャラリートークや対話型鑑賞会、インスタグラムのライブ配信といった関連イベントも開催しつつ、さまざまな角度から当館コレクションの魅力を発信します。夏季に初めて着手したフリートークデーの試行も重ねてまいります。

ご来館のたびに新しい美の魅力を発見し、心和んでいただける展示をめざし、今後も努力を重ねてまいります。芸術の秋の所蔵作品展にもご期待ください。

【第1展示室】近代西洋美術における植物のものがたり

特別展「おいしいボタニカル・アート」にちなんで、この展示室では、当館の西洋美術コレクションの中から、自然や植物が描かれた作品をご覧いただきます。

サルバドール・ダリが描いた大作《ヴィーナスの夢》には、立ち枯れたオリーブの木が描かれ、不安を感じさせます。そして、ルネ・マグリットの《人間嫌いたち》には、林立するカーテンに混じった一本の樹木が違和感を掻（か）き立てます。現実にはありえない世界を生み出すシュルレアリスム（超現実主義）の画家にとって、植物は身近な存在であるからこそ、現実との乖離を強調する格好の素材となりました。また、アレクサンダー・カーノルトの《静物》は、リュウゼツランの鉢を中心に、現実を精緻に描きつつも、その背後に潜む奇妙な空気感を描写しています。

今回の展示では、同作に関わる資料や作者の手紙なども交えてカーノルトの世界をご覧いただきます。

さらに、自然への賛歌が謳（うた）われた、アリスティード・マイヨールの《ウェルギリウスの農耕歌》などもご紹介します。表現は異なっても、いずれも植物と人間の営みとの密接な繋（つな）がりから描かれたといえるでしょう。植物をめぐる様々（さまざま）な物語、どうぞお楽しみください。

アレキサンダー・カーノルト《静物》1925年

【第2展示室】日本洋画と彫刻に見る植物

この展示室では、日本の洋画家や版画家、彫刻家による植物を表現した作品をご紹介します。

私たちの身近な存在である植物は、さまざまな作品に描写されるとともに、自然の造形力に魅せられた作家にとって、創作の尽きない源泉でもあります。写実的で再現性の高い静物画はもちろん、抽象的な作品や、さらには植物が脇役ながらもその存在感を発揮することで、表現に奥行きをもたらす作例も少なくありません。圓鍔勝三の彫刻では、木陰の存在が母子を優しく見守るような和やかな気配をもたらし、南薫造の《小童》では、しなやかな若枝が少年の清楚で初々しい印象に重なるようです。戦後を代表する美術家・宮崎進は、抽象性を加味した力強い描写で冬の樹が持つ生命感を表現。版画家・吉原英雄は人体と植物の官能性を重ねつつ、都会的で洗練された色彩と構図のうちに描き出しました。

季節感や旺盛な生命力、大地との結びつきやその恵み、あるいは人間を超える悠久の歴史など、植物の多彩なイメージが生み出す豊かな作品世界を、どうぞごゆっくりご覧ください。

靉光《静物》1943(昭和18)年

【第3展示室】花鳥画の移り変わり

この展示室では日本画作品をご覧いただきます。日本画は古来、掛軸や巻物、屏風などの多様な形態で生活空間に飾られました。しかし、近代以降には生活から解き放たれ、鑑賞を目的とする展示空間で額装作品が飾られることが一般になり、さらに植物の描かれ方にも多様化をもたらしました。

古来の日本画では植物、草花を主に描く作品を「花鳥画」と呼び、吉祥を寿ぐ寓意を含んだものと理解されます。たとえばハクモクレン、カイドウ、ボタンを組み合わせて「玉堂富貴図」と称する画題はその代表例で、立身出世や富貴を寿ぐ意味がありました。

近代以後の展覧会の隆盛では、かつて生活の一部に求められた花鳥画の寓意は必然性を失い、かわって画家個人の想い、個性を表現していくことが重視されました。今回展示の猪原大華によるウメを描いた作品《梅》(1957年)、《白梅》(1968年)では、何を描くかよりも、如何に描くかに作者の苦心があることを感じられることでしょう。植物を描いた近世以降の作品を通して、日本画の変貌していく様子を感じ取っていただきたいと思います。

児玉希望《晩春》1925(大正14)年

【第4展示室】ボタニカルな中央アジア　＃乙嫁たちの手仕事3

ブハラ(現ウズベキスタン)
《刺繍布(ジャイナマズ)》（部分）19世紀末

シルクロードの中心部、中央アジアの世界へようこそ。

旧ソ連領中央アジアは、東に中国の新疆ウイグル自治区、西にカスピ海、南にインドやイラン、北にロシアが位置する地域で、1991年のソ連崩壊とともにウズベキスタンなど5つの国が独立しました。この地域は、刺繍や絨毯などの染織制作が盛んに行われ、ジュエリーや木工、陶芸やガラスなどの多彩な工芸が花開いた地でもあります。

当館は中央アジアの染織品と金工品、ジュエリーの大規模なコレクション約900件を所蔵しており、国内最大にして国際的にも優れたコレクションとして知られています。

今回は、スザニと呼ばれる刺繍布、ウズベクとトルクメンの民族衣装、トルクメンのジュエリー、そして愛らしい刺繍袋をご覧いただきます。これらには、草原に春を告げるチューリップ、当地で古くから栽培されているザクロやアーモンドなど、ボタニカルなモチーフも多く登場します。

19世紀の中央アジアを舞台にした『乙嫁語り』連載中の人気漫画家・森薫氏が当館のために描いたイラストとともに、漫画の舞台にもなった中央アジアの手仕事の風景をお楽しみください。

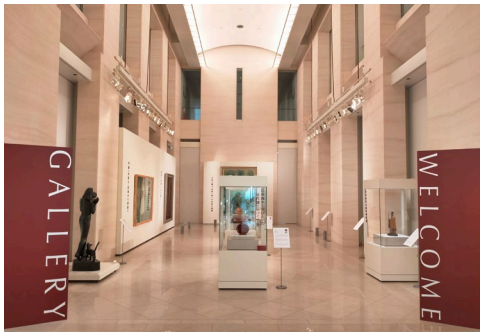
【ウェルカムギャラリー】

当館では、リニューアルオープン25周年を機に、新たな展示コーナーとしてウェルカムギャラリーを設けました。みなさまへの歓迎の気持ちと、「多くの方々の美術への誘いとなるように」との願いを込め、この場所を「ウェルカムギャラリー」と命名しました。当館の顔ともいうべき大理石に囲まれた展示室で、わかりやすい作品解説をご用意しています。また、当館の成り立ちをご紹介する動画を展示室の入口で上映しています。

本展では、「これが、県美の広島愛」をテーマに、広島県ゆかりの著名作家である、洋画家の小林千古・南薫造・靉光、日本画家の児玉希望・奥田元宋・平山郁夫、彫刻家の平櫛田中・圓鍔勝三、工芸作家の六角紫水・清水南山・今井政之の作品を一堂に展示します。作家を育んだ広島という地域の特性や、作家の広島への想いを伝えるエピソードと合わせて、当館が誇る名品の数々をご覧ください。

また、1階ロビーにて画家・菅井汲が所持したポルシェの展示や、1階図書室では美術をテーマにしたマンガコーナーを設けるなど、多くの方々に美術に親しんでいただく場をご用意しています。

美術が好きな方も、これから好きになる方も、どうぞお気軽にお楽しみください。



【関連イベント】

■リレートーク

当館学芸員が各室の見どころをリレー形式で紹介するトークイベントです。(ワイヤレスガイド使用)

日時:2023年9月22日(金)15:00～(各室10分程度)

場所:2階展示室

講師:山下 寿水(当館主任学芸員)、藤崎 綾(当館主任学芸員)、隅川 明宏(当館主任学芸員)、福田 浩子(当館学芸課長)

定員:15名

※要事前申込【 Tel.082-221-6246(当館)】

※要入館券。会場入口でお待ちください。

■対話によるギャラリートーク

所蔵作品展に出品中の作品から、学芸員が選んだいくつかの作品をみんなでお話しながら鑑賞します。

日時:①2023年10月28日(土)10:00～

②2023年11月23日(木・祝)15:00～

場所:① オンライン ② 2階展示室

ナビゲーター: ① 森 万由子(当館学芸員)

② 岡地 智子(当館主任学芸員)、森 万由子(当館学芸員)

定員: 8名

※①の事前申込はこちらのGoogleフォームから
https://forms.gle/JVtmSjkMaJDUpSLv9

※②は要事前申込【Tel.082-221-6246(当館)】

※②は要入館券。会場入り口でお待ちください

■インスタライブ配信

閉館後の展示室内からギャラリートークをライブ配信します。(約15 分間)

① 西洋美術 2023年9月19日(火)17:00～講師:山下 寿水(当館主任学芸員)

②日本洋画 2023年9月26日(火)17:00～ 講師:藤崎 綾(当館主任学芸員)

③日本画 2023年10月3日(火)17:00～ 講師:隅川 明宏(当館主任学芸員)

④工芸 2023年10月10日(火)17:00～ 講師:福田 浩子(当館学芸課長)

公式インスタグラム

■ワークショップ「スザニ刺繍のつけ襟を作ろう」

日時：3回コース

①2023年10月7日(土)13:30-16:30　対面のみ

②2023年10月14日(土)13:30-16:30　対面・オンライン

③2023年11月11日(土)13:30-16:30　対面・オンライン

会場：当館、10月7日は所蔵作品展含む

講師：福田浩子（当館学芸課長）、岡地智子（当館主任学芸員）

定員：6名（3回すべてに参加できる方）

※google formからお申し込みください。

https://forms.gle/pGZ1gEF5r5HoSi9q9

定員を超過した場合は参加いただける方にメールでお知らせします。

申込受付開始9月15日9時～【Tel.082-221-6246（当館）】

※10月7日は要入館券

※無料。ただし、材料・道具類は各自で準備

■フリートーキングデー　2023年12月9日(土)9:00～17:00

子供も大人も自由に感想を話しながら気兼ねなく展覧会を楽しんでいただけるよう、フリートーキングデーを試行的に実施。当日は各種イベントも併せて行います。

① ベビーカーツアー　10:30～11:10

授乳室など館内案内の後、展示室を案内します。

講師：福田浩子（当館学芸課長）

定員：5名

※事前申込制【Tel.082-221-6246（当館）】

※要入館券、1Fロビーにお集まりください。

② 対話型鑑賞　13:00～14:00

HACH（Hiroshima Arts＆City Hive）と共同で実施します。思ったこと、感じたことをみんなで共有しながら作品を鑑賞します。

ファシリテーター：片島 蘭（広島市立大学非常勤特任教員）　協力：森 万由子（当館学芸員）

定員：10名程度

※事前申込制（お問い合わせ・申し込みはHACHまで hach_info@icloud.com）

※要入館券、1Fロビーにお集まりください。

③ 対話によるギャラリートーク　15:00～16:00

講師：山下 寿水（当館主任学芸員）、森 万由子（当館学芸員）

定員：8名

所蔵作品展に出品中の作品から、学芸員が選んだいくつかの作品をみんなでお話しながら鑑賞します。

※事前申込制【Tel.082-221-6246（当館）】 ※要入館券、2階展示室入口にお集まりください。

④作品の缶バッジをもって、作品を探しに行こう！

当館所蔵品の一部がデザインされた缶バッジを配布します。どの作品が缶バッジにデザインされているのか、展示室で探してみてください。

先着：100名

※事前申込不要　※要入館券

【媒体掲載用の画像提供について】

※いかなる場合も本プレスリリースからの転用はご遠慮ください。

※都合により出品作品が異なる場合がございます。ご了承ください。

※画像については提供が可能です。掲載の際に画像が必要な場合は、当館へお問い合わせください。

※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館へ提出していただき、1週間程度お時間を頂きます。ご了承ください。

※展示室内での筆記具の使用は鉛筆のみでお願いします。（ボールペンなど使用不可）

問い合わせ先

広島県立美術館

〒730-0014　広島市中区上幟町2-22

TEL.082-221-6246　FAX.082-223-1444

E-mail　iroeuma2@gmail.com

担当　学芸課　山下 寿水

総務課　広報担当　一色 直香

－ 当館公式SNSはこちらから －